健康マイライフ

元気予報⑥

原稿：今市医師団

心房細動

《心不全や血栓症、塞栓症に注意が必要》

心房細動は、心房が小刻みに震えて不規則に収縮するために不整脈を起こす病気です。自覚症状としては胸の苦しさや圧迫感、動悸などが挙げられます。心臓には洞結節と呼ばれる部分があります。それが一種の電気信号を発して心臓全体に伝え、心房と心室がタイミングをそろえて収縮、拡張します。この洞結節から生ずる一連の正常なリズムを洞調律といいます。洞結節が正常に働かず、心房全体が痙攣したように震え、不整脈を起こす状態が心房細動です。心室細動とは違って突然死に至る危険は少なく、初めは発作性で一時的なものです。しかし、やがて持続的になり、ついには永続的なものになります。自覚症状があまりなく、その状態に慣れてしまった結果、異常を感じない場合もあるので注意が必要です。

心房細動が起こると、大きく分けて2つの問題が生じます。一つは心不全を起こしやすくなること、もう一つは血栓症や塞栓症を起こしやすくなることです。

心房細動は、心臓弁膜症などの心臓病が原因で起こる場合があります。こうした心臓病に伴い、心臓の機能が低下した状態で心房細動が起こると、心室に十分な血液を送り込めなくなってしまいます。このような状態になると、心不全を起こす可能性が高まります。場合によっては急性心不全を引き起こし、早急な治療が必要になります。

また心房細動が起こると、心房が小刻みに震えるために血流がよどみ、心房内に血液の塊、血栓ができやすくなります。これが脳の血管に詰まると脳梗塞、心臓の血管に詰まると心筋梗塞になります。

そのため、血栓ができないようにするための治療が必要になります。抗血小板薬や抗凝固剤などの投与が行われます。

心房細動が起こってから時間が経過していない場合、薬の投与や電気ショックなどにより、元の洞調律に戻す治療が行われます。血栓症を予防する治療も行います。心房細動が慢性化すると、元の洞調律を維持することは難しくなります。この場合、心拍数が早くならないように薬を投与するレートコントロール（心拍数コントロール）が行われます。もちろん、血栓症の予防治療は継続して行います。

ただ、心臓弁膜症があって心房細動が起きた場合は、手術など心臓弁膜症を治療することが必要です。心房細動も命にかかわる場合がありますので、心配な方は医療機関で診察、検査を受けてください。

麻しん風しんの予防接種

法改正に伴い、6月2日から麻しん風しん予防接種の方法が変わりました。また、麻しん風しん単独ワクチンが定期的に受けられる予防接種ワクチンとして使用可能になりました。変更になった主な内容は次のとおりです。

対象年齢	第1期…生後12～24か月未満の子	第2期…年長児
変更前	麻しん風しん単独ワクチンのいずれも未接種の子のみ、MRワクチンを接種	
変更後	麻しん風しん単独ワクチンのいずれも未接種の子のみMRワクチンを接種 ※麻しん風しんいずれか一方の接種が済んでいる場合は、もう一方の単独ワクチンを接種（MRワクチンは不可）	すべての年長児がMRワクチンを接種（すでに麻しん風しん単独ワクチンを接種していても接種可能） ※今年度の対象年長児は、平成12年4月2日から平成13年4月1日までに生まれた子

くわしくは
今市保健福祉センター☎(21)2756
日光総合支所健康福祉課☎(54)1110
藤原保健センター☎(76)1213
足尾総合支所健康福祉課☎(93)3111
栗山保健センター☎(97)1141